



あまにゅう

みなさんよろしくお願ひします

会長 高山幸人(H5-1 ミクロネシア連邦 日本語教師)

みなさん 新年あけましておめでとうございます。今年もお世話になります。今年もみなさんにとって素晴らしい1年でありますようお祈りしております。

昨春から、高野前会長のあとを受けて残任期間の1年間ということで会長をさせていただいている。AOCAの課題は、何と言っても雇用環境の厳しさからくる新規帰国隊員の県外への流出です。また県内では教員を目指しているOVが結構いらっしゃいます。これを少しでも解決するために京都市教育委員会等が設けている教員採用JOCA枠の新設を県教育委員会に働きかけたいと思います。団塊の世代が退職する来年度以降が最も適した時期だと思います。これは私個人、AOCA独自よりもJOCA東北や応援団と連携しながら進めていければなあと思います。国際的視野を持った人材の育成には、協力隊の経験者がぜひとも必要ですから。

いずれにしましても、今年も年間を通して様々な事業がありますのでAOCA事業にご無沙汰の方でも時間を作って参加できそうな事業がありましたら、ぜひお待ちしています。大、大、大歓迎です！OV同士の交流、情報交換のためにも事業に参加してみてはいかがでしょうか。

青森ケーブルテレビの取材進行中です お楽しみに！

(今回の番組制作担当の三浦さんからお話をうかがいました。聞き手 大賀重樹)
1, 取材のねらい

今回の取材のねらいとしては、物・金ともにめぐまれている先進国の日本に住む私たちが何かこの社会を生き辛いものを感じはじめているような気がする今、途上国の暮らしの様子を通じて今の暮らし方を省みる機会がもてないだろうか、また、青森にも青年海外協力隊の経験者が多数いて、その方々の活動を通じて、私たちが地球の市民であることを確認したいという点にあります。

2, 取材のOB、OG

1月に取材にご協力いただいた方(取材順にて) 千葉たか子さん、高山幸人さん、大賀重樹さん、対馬 均さんの4名ですが、番組全体で8名程度を想定しております。今後も1月中旬以降ご連絡をとって、取材を進めていきたいと考えております。

3, 放送予定

青森ケーブルテレビ市民チャンネルにて1月～3月にかけて、毎週水曜日 16:30～、18:30～、21:30～、11:30～ 日曜日 16:30～を予定しております。内容は替わりにて以下の予定です。

千葉たか子さん 1月17日(水)
高山幸人さん 1月24日(水)
大賀重樹さん 1月31日(水)
対馬 均さん 2月 7日(水)

4, 取材してみての感想

お一人お一人の内容が深いため、予想していたよりも多くの時間(3時間ほど)をいただいての取材となっています。協力隊での経験が、その後の人生に大きく影響を与えていたことを感じます。そのため、取材したものを見ることへの重い責任を感じています。ねらいがぶれることなく、かつ誇張することなく、メッセージを見た方へ伝えることができればと考えています。

今度みんなで上映会ができるといいですね。楽しみです！！

どのOVもし
ゃべりだす
と、止まらな
いな！



青森県青年海外協力協会(AOCA) 機関誌

平成19年2月号 (2007.1)

発行: 青森県青年海外協力協会事務局

編集担当: 大賀重樹(5-1ホンデュラス)

「あまにゅう」は、主に青森県在住の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体の機関誌です。この機関誌を年4回定期的に発行することを通して、県内在住のOB・OGの情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方に私たちの活動についての理解を求めるとともに、国際協力・国際理解の輪を広げることを目的として発行します。

「あまにゅう」の由来

「あまにゅう」は八甲田をはじめとした、高山にあり、きれいな白い花をさかせる植物です。

普段は人知れず咲いているのですが、一旦山に登ると大きくてはっきりと確認できる植物です。青森に住んで、世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない、そんな協力隊経験者と通じるところがあるようで、機関誌を作ったときにその名前を採用されました。

なお、名付け親は川村宏義氏(56-2 バングラディッシュ)で、「あまにゅう」の初代編集者です。

忘年会の翌日 12月17日

(日)午前10時から3時間ほど

自宅で撮影しました。リハーサル→本番でしたが、ちょっとしたリハのはずが、つい1時間もしゃべりすぎて、本番に入る前は少し疲れちゃいました。本番でカメラがまわると急に意識したして緊張で汗が滲るのに・・・。

リハでしゃべってたことを忘れちゃったり・・。ぶつけ本番の方がよかったです。いたくことになるテープは私の財産になりそうです。今回の取材を通じて自分のミクロネシアボックスができた気がしました。それまで眠っていた写真や民芸品をひっくり返して1時間くらいで説明できるようにまとめることができました。

一生に一度の記念になりそうです。(高山 幸人)

平成18年度2次隊 激励壮行会を開催

12月19日(火)の夜、青森市のパザージュ広場の「怒濤の厨房」にて、壮行会を行いました。新隊員の3人はいずれもパワフルで参加者みんなが元気をもらいました。

写真の上から順に、新隊員は、

吹田歩美(ふきたあゆみ)さん
(マラウイ・コンピュータ技術 弘前市)

沢木文雄(さわぎふみお)さん
(ガーナ・自動車整備 十和田市)

向中野路世(むかいなかのみちよ)さん
(ジンバブエ・エイズ対策 七戸町)

「これでまた、マラウイに青森県人が増えるなあ。」とか「健康にだけは気を付けてね。」「青森でみんな待っているからね。」などなど、会話が弾みました。

今回は、協力協会のメンバーの他、18年度3次隊の訓練の方2名も参加されたり、

帰国間もない田村淳 OB(16-2 PNG 村落開発普及員)の他、奈良応援団長なども参加されたりして、大変賑やかな会となりました。

たくさんの出会いが待っています。素敵な2年間になりますように！



JOCV 東北ブロック会議報告

高山幸人(H5-1 ミクロネシア連邦 日本語教師)

11月25日(土)～26日(日)岩沼(宮城県)でJOCV東北ブロック会議が開催されました。その中からこれからのJOCVブロックとしての検討課題は、NPO東北の設立になりそうです。詳細な議論はしませんでしたが、設立の目的は「責任ある団体として・・・後輩たちが活躍しやすい環境を整える・・・」ということでした。

私が個人的に心配していたメンバーの個人情報をメンバーに公開する扱いですが、東北各県に聞いたところ、数年前までは、総会資料として公開していたが、現在は全ての県で非公開にしているとのことでした。ただ、JOCV総務課長の城島さんの話だと法施行前の情報であれば開示しても問題はないとのことでした。

東北各県に共通と思われる新規帰国隊員の定着が難しい(就職先が限定的で少ない)ことについて各県に1つでも教員採用のOV枠を設けてもらうようJICAやJOCVから県教育委員会に依頼してもらえないかという話がありました。JICA東北は支部長が県教育委員会に文書持参で依頼はしているとのことでした。

宮城県が行っている「インフォネット」について、その趣旨や活動内容がとても素晴らしいので青森でも行えないか今後機会を見つけて、話題提供したいと思います。一緒に行った中村副会長、お疲れさまでした。

JOCA 応募促進員の業務を行って

奈良真吾 (16-1 チリ 森林経営)

平成18年度秋の青森県応募促進業務(2ヶ月間)を担当させていただきました。主な業務はJICAの青年協力隊秋応募に伴い県内の応募者の増加を目的とし、その発掘に努めることでした。

帰国もなく体験談を話す機会をいただいたということは非常に私のモチベーションを上げてくれました。そんな中でJICA青森デスクの相馬多一郎さんには非常にお世話になりました。この業務は推進員との連帯が不可欠であり、多くの場数を経験している相馬氏の助言及び協力には非常に感謝しております。また、OB会会長の高山幸人さん、前促進員の渡辺淳一さんには資料提供や応募説明会へのOB協力者の紹介などをいただきました。さて、業務に当たり6名の応募者を募ることができました。うち1名からは一次試験合格の連絡をいただきました。今後ますます多くの県民が青年海外協力隊となることを祈っております。



忙しい中、秋の募集説明会に集まった、
左から伊藤OB、奈良OB 対馬OB 里見OG。

むつ工業高校 「カンボジアにTV電話で会議を実現」

南澤 英夫 (8-1 マレーシア 日本語教師)

南澤です。カンボジア派遣中の越善啓君と、JICAの国際通信回線を使って、むつ工業高校生徒と国際会議を実施しました。題して「世界とのつながりを学ぶ～カンボジアと日本、国際協力の今～」です。

目的は、国際化する社会に対応できる生徒の育成のため、本校旧職員の越善啓さんを通じて、国際理解、国際協力を進めようというものです。具体的目標としては、①視野を広げ、国際的な視点を獲得する ②日本の国際協力について学ぶ ③カンボジアを通じ、異文化について学ぶ ④自分たちのできる国際協力について考え、行動のきっかけをつくるです。

実施したのは、平成18年10月21日(土曜日)13時00分～15時00分で、むつ工業高校第一体育館で行い、全校生徒および本校教職員、保護者を対象に行いました。内容は、越善啓隊員と JICA(国際協力機構)の協力を得て、カンボジアの様子や青年海外協力活動を伝えてもらい、国際理解と国際協力の必要性を学ぶというもので、越善さんからのアドバイスを受け、本校生徒が取り組める国際協力活動を展開するというものです。

会議の流れは、(1)日本の国際協力活動について(2)越善さんからのカンボジアレポート(3)本校生徒との意見交換としました。

意見交換の中で、越善隊員から「高校生活3年間では、工学を学ぶほかにもプラスアルファの何かを見つけて欲しい。世界に出ていきたい人がいたら、どんどんチャレンジしてみて」とエールを送りました。

◇越善啓氏 元むつ工業高校講師(H16/17)現青年海外協力隊員、平成18年6月26日からカンボジア王国へ派遣、現在カンボジア北東部のクラチエ州でコンピュータ・インストラクターとして活動中。

10月23日の東奥日報にくわしく記事が掲載されたのでご覧下さい。

LIVE IN THE WORLD

今回も世界各地からの元気な便りをしようかいします。隊員活動を経て、海外で活躍されている方からの便りは、本当に頭が下がります。どうか元気にご活躍下さい。

あけましておめでとうございます

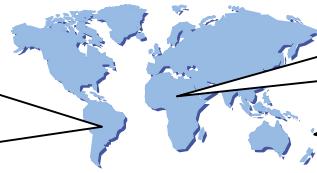
パラグアイ、野菜隊員の吉田可奈子です。昨年は、駒ヶ根の訓練から始まって、パラグアイにきて青森のいろんな方とも会えて、一瞬すぎた、充実した一年でした。今年もパラグアイの一んびりしたペースにあわせて充実した年にしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

青森は雪のないお正月になつたんでしょうか。今年は雪が少ないようですね。こちらは、雪はもちろんなく、暑いので、クリスマスもお正月も気分が出ませんね・・・。とりあえず、あんこと団子をホームステイ先の家族に振舞いましたが、評判は、いまいち・・・。地球の裏側の食生活の壁は厚いです。

活動は近所の主婦たちと、共同菜園をしていますが、目標の「野菜を販売する」ことにちょっとずつ前進しているところでしょうか。販売といっても、近所の知り合いに、分ける程度ですが・・。

おばちゃんたちのやる気を見ながら、ゆっくりやっていきます。とりあえず、この暑さに慣れなければ・・・。また、近況をお知らせしますね。では、皆さんもお体に気をつけて。

パラグアイ共和国
(日本の面積の1.1倍、
人口607万)



チャド共和国 (日本の3.4倍の面積、人口840万)
バヌアツ共和国 (面積は新潟県位、人口22万)

緑のサヘルをご存じですか！

13・2 ブルキナファソ派遣の小田桐真子です。ご無沙汰しております。一昨年10月からNGO「緑のサヘル」のスタッフとしてチャド共和国においてスーダン難民支援事業の現地調整員をしておりました。11月11日治安の悪化のためチャドより帰国しました。

さて、この1年の経験をご寄付を頂いている国民の皆様に知って頂きたく、また広く様々な人々にこのような問題があるということを知っていただきたく、1月に帰国報告会を東京で開催する予定です。そこで、もし可能であるならば、青森でも報告会をしてみたいと思っています。

話は変わりますが、当団体では毎年カレンダーを販売しております。1部1000円です。写真家の小松義夫さんがアフリカ各国で撮影した写真を使っております。もし興味がありましたらご一報ください。カレンダー1部の売り上げで苗木30本購入可能です。では、失礼します。

◎ 緑のサヘルのホームページを見ると、カレンダーの紹介もありますし、活動紹介もあります。カレンダーは、私も買っていました。ホームページを一度のぞいてみせんか。(大賀重樹)



求む、講師！ 「自分の活動をふり返って話しませんか」

日時：平成19年3月10日（土） 15:00～17:00

場所：水産ビル5階 国際交流ラウンジ

対象：国際交流協会賛助会員他一般市民 15名程度

内容：前半一時間くらい、基調スピーカーとして、国際協力を行なった国の現状や活動内容などを紹介し、後半は質疑応答を通じて、参加者にその国に対する理解を深める。グローバルトークは昨年1月からはじめられた国際交流ラウンジの自主事業で、留学生・研修員や県庁国際交流員（CIR）や外国語指導助手（ALT）に主に基調スピーカーをお願いしていましたが、やっとJICA経験者にお鉢が回っていました。けっこうアットホームな雰囲気ですので、講師レビューには持って来いです。まだ、出前講師の経験のない方や経験の浅い方、講師やってみませんかー！

これ以外にも、メール等で配信されているように、次々に要請があがっています。私も弘前大学の学生（10月）と青森高校の学生（11月）を対象に話をしました。くわしくは、青森高校の<http://www.aomori-hs.ed.jp/>をご覧ください。話してみるとこんなことが見えてきます。一度やってみましょう。（大賀重樹）

HAPPY BABY !

12月3日の朝、2945g の男の子でした。母子共に健康で、先週無事に退院しました。オムツ交換、沐浴、抱っこなど、すべてが新たな経験です。そういうことをやりながら、日に日に少しずつ、父親としての実感が沸きつつあるこの頃です。まだまだこれからですが、夫として、父親として、家長として頑張ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

瓜田一貴

12月4日(月) 無事 男の子が生まれました。瓜田君のところとは1日違います。協力隊参加にこだわり、さまざま遅れた南澤ですが、初めての父ちゃんです。毎日、オムツ交換や沐浴で頑張っています。大学まで考えると、68歳までは働くことはいけない勘定です。まあ、健康で長く働く意味が見出せたと考えています。名前は 慧海(えかい)です。

南澤英夫

「心に地球儀」持っていますか

この言葉は、前国際協力推進員の成田さんからも聞いたことがあります。現在、朝日新聞青森県版に各週で、「心に地球儀」と題して相馬推進員のコラムが掲載されています。新聞だと写真は白黒ですが、ホームページにアクセスすると、写真はカラーでばっちり見ることができます。みなさん、アクセスしてみてください。オススメです。<http://mytown.asahi.com/aomori/>ちなみに今までのバックナンバーは以下の通りです。

①コロンビアで「まいったなあ」(10/19)

②空手で現地に溶け込む(11/02)

③気持ち通じ 町の人理解(11/16)

④感じ方違い くずれた常識(11/30)

⑤自給自足の「複合農園」づくり(12/14)

⑥南米の新年 花火や爆竹で祝う(01/11)

みんなの意見を 是非 聞かせてください。高山幸人(H5-1 ミクロネシア連邦 日本語教師)

他のOV会では会費を納めてもらったり、また会費を納めた会員にのみ会報や情報を送ったりしているようです。東北の多くのOV会では、会費徴収をしない代わりに募集説明会での謝金をOV会に納めてもらっています。それは、OV会の活動に賛同して財政的に支援してくれていることになります。その代わりに歓送迎会などの懇親会費を実費徴収ではなく、負担を軽減しています。

以上がこれまでのAOCAの対応でした。今後の取り扱いについて、総会等の中で話題にしていければと思います。また、最近各県で謝金を「OB個人に支払うべき」という意見がJICAにたびたび寄せられているそうです。OB会に謝金を支払っているのは全国でも東北のみであること、また最近帰国されたOBからこのような意見がでているようです。AOCAとしても、機会を捉えて謝金支払いについて皆さんのお見を聞くことができればと考えています。メールでも構いません。活発に意見交換しましょう。



説明会で話をする瓜田OG

「盛り上りました。AOCA忘年会」

12月16日(土)に開催!写真から盛り上がりを感じてください。(幹事の工藤睦美OGありがとうございました)



楽しいひとときでした。家族での参加もオススメです。



今後の主な予定から

- 1月6日(土) ふるさと宅配便発送 水産ビル5階 国際交流ラウンジ13:00~
1月6日(土) 二次選考対策勉強会 アウガ5階13:00~16:00
1月17日(水) 出前講座 講師派遣 三沢一中 相馬多一郎 OB
1月20日(土) 18年度東北地区JICA関係団体連絡会議 仙台にて開催
昨年まで青森で行っていたAOCA-JICA連携会議の拡大版が仙台で行われます。
今後のJICA事業の動向や19年度に向けた各団体の活動の方向についての情報交換・意見交換が目的で参考範囲は、東北各県のOV会と育てる会と帰国専門家連絡会です。
1月27・28日(土・日) JOCA平成18年度第2回評議員会、新春交換会
1月29日(月) 16年度2次隊 県庁帰国表敬と歓迎会
2月10日(土) 出前講座 国際交流協会(グローバルトーク) 講師は成田良一帰国専門家
2月17日(土) エッセイコンテスト表彰式と地球色の報告会
3月3・4日(土・日) 北海道・東北ブロック育てる会会議
3月10日(土) 出前講座 国際交流協会(グローバルトーク) 講師は未定
3月中旬 スキルアップセミナーと留守家族連絡会
3月下旬 18年度3次隊壮行会&推進員歓送迎会

(編集後記) 大晦日に紅白歌合戦を見ました。任国にいた頃、「だれだこれ。この芸人知らん! 今これが日本で流行しているのか・・・。」「??」連発で見ていましたことを思い出しました。隊員の方々どうですか? この冬は記憶にないくらい雪がなく、楽をしたのですが、これからどっと雪がつもりそうです。

出前講座の講師派遣やケーブルテレビの取材などで生き方を考え直す機会もあります。講師としてどんどんデビューしていって下さい。では、次回のあまにゅうをどうかお楽しみに。ご意見・ご感想をいつでも募集しております。momotarooga@ybb.ne.jp
電話&FAXでの連絡は、国際協力推進員(相馬)まで。(電話017-735-2249)
(FAX017-735-2252)